

昭和 42 年度春季大会 開かれる

学術賞に中塚・高波君，技術賞に三木，後藤・榊原君が授賞さる

▶ 第 21 回通常総会

5月19日（金）11:00~11:30 に
わたり熊本大学工学部において開催
された。

出席者：71 名。

委任状提出会員：1,478 名。
（昭和 42 年 3 月 31 日現在の正会員数
は 6,880 名）

事務局から上述のとおり出席者
数，委任状提出者数を報告し，定款
18 条の定めるところにより第 21 回
通常総会成立の旨宣言し，五十嵐会
長欠席のため吉城常任理事議長とな
りつぎの議案を審議した。

第 1 号議案：昭和 41 年度事業報
告の件。

吉城常任理事から別掲のごとく報
告，異議なく承認された。

第 2 号議案：昭和 40 年度決算報
告の件。

兼担当理事から別掲のとおり一般
・研究・出版会計について報告があ
り，前田監事から監査報告があり，
異議なく承認された。

第 3 号議案：昭和 42 年度事業計
画の件。

吉城常任理事から別掲のとおり説
明があり，異議なく承認された。

第 4 号議案：昭和 42 年度予算に
関する件。

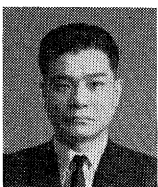
兼担当理事から別掲のとおり一般
・研究会計の予算について説明があ
り，異議なく承認された。

以上をもって第 21 回通常総会は
終了し，引き続き同会場で自動車技
術会賞授与式を挙行政した。

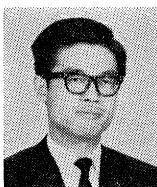
▶ 第 17 回自動車技術会賞授与式

田中敬吉審査委員長から審査委員
会の審査経過報告があつた。つづい
て賞の授与式があつた。

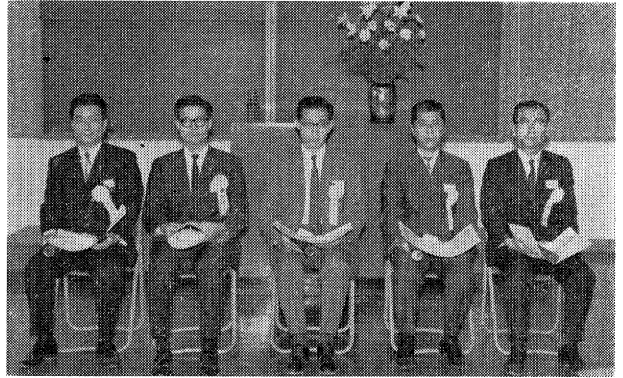
本年度の授賞はつぎのとおりであ
る。



中塚武司君



高波克治君



左から中塚，高
波，三木，後藤，
榊原の受賞者諸
君

< 学術賞 >

表題：自動車の曲線運動とくに限
界特性に関する研究

（授賞）中塚武司君（いすゞ自動
車・研究部研究室主査）

高波克治君（いすゞ自動車・研究
部研究室技術員）

（授賞理由：自動車の懸架系・操向
系およびタイヤなどの構成要素の特
性を再検討し，これが自動車の曲線
運動とくに限界付近の運動におよぼ
す影響を定常・過渡の両特性から解
析した。理論計算は釣り合いの多元
方程式より求め，多数の実験値と一
致をみている。

（両君の略歴）

中塚武司君 大正15年11月13日
生れ，昭和 26 年東京工業大学卒
業，昭和 27 年 3 月東京工業大学特
別研究生修了，昭和 27 年 4 月いす
ゞ自動車に入社，エンジン車両設
計，車両の運動性能，乗心地，人間
工学などの研究に従事，現在にいた
る。

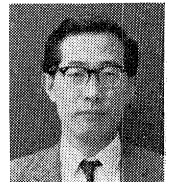
高波克治君 昭和 13 年 1 月 15 日
生れ，昭和 35 年 3 月東京工業大学卒
業，昭和 37 年 3 月東京工業大学修
士過程卒業，昭和 37 年 4 月いすゞ
自動車に入社，車両の運動性能，乗
心地の研究に従事，現在にいたる。

< 技術賞 >

表題：自動車機関用半導体点火装
置の開発

（授賞者）
三木隆雄君（三菱電機・姫路製作所
技術部電磁機器課配電器係長）

（授賞理由）早くから自動車用半



三木隆雄君

導体点火装置の開発に着手し，多く
の国内外特許をとるとともに，その
研究成果を業界に発表し，わが国に
おける半導体化点火装置の進歩を促
進した。成果として製品化したトラ
ンジスタイグナイタは点火装置のメ
ンテナンスフリー化ならびに機関の
高速化，高性能化に貢献した。

（略歴）昭和 5 年 2 月 7 日生れ，
昭和 23 年 3 月県立姫路工業高等学
校電気科卒業，昭和 23 年 4 月三菱
電機に入社し現在にいたる。

表題：高速自動車の開発

（授賞者）
後藤健一君（日産自動車・プリンス
事業部第 1 車両技術部次長）

榊原雄二君（日産自動車・プリ
ンス事業部動力機構部次長）

（授賞理由）高速高出力の自動
車機関を研究し，さらにこれに適合し



後藤健一君



榊原雄二君

技術会通信・技術会通信・技術会通信・技術会通信・技術会通信・技術会通信・技術

昭和 42 年度一般会計予算

昭和 42 年度研究会計予算

取 入 の 部		金 額	備 考
正学	17,250,000円		
準生	450,000		
会費	20,850,000		
員会	1,950,000		
会費	5,700,000		
費取	1,300,000		
入取	450,000		
合 計	47,950,000		
支 出 の 部			
	金 額		備 考
自動車技術刊行費	14,130,000円		
学生自動車研究会	270,000		
講演会・講習会	1,050,000		
研究調査費	630,000		
研究委員会	6,175,000		
技術会賞	150,000		
刊行物出版	850,000		
行物出版	240,000		
議費	800,000		
総会・大会	1,688,000		
支通信	650,000		
印刷・事務用品	250,000		
賃借	2,402,000		
光熱・修繕	150,000		
俸給	10,855,000		
福利厚生	600,000		
旅費	1,200,000		
会費徴収手数料	600,000		
退職引当金	1,000,000		
借入金償却	1,015,000		
什器備品	400,000		
減価償却	200,000		
交際費	240,000		
雑費	600,000		
雑予備	1,087,743		
前期不足金	717,257		
補填			
合 計	47,950,000		

携 要	金 額	備 考
収入		
補助金	円	
自動車の安全性向上に関する研究	5,800,000	日本小型自動車振興会よりの補助金
自動車用マネキン及び人体計測の研究	1,000,000	" (内定)
自動車の安全に関する対策の評価	13,100,000	" "
団体規格の作成	700,000	" "
自動車用機関の燃焼の研究	9,200,000	工業技術院よりの補助金 (内定)
小 計	29,800,000	
業界援助金		
安全関係の研究	12,866,000	
公害関係の研究	14,800,000	
規格関係の研究	5,300,000	
安全対策の評価	7,900,000	
小 計	40,865,000	
自動車技術会負担金	6,175,000	
合 計	76,840,000	
支出		
自動車の安全性向上に関する研究	14,500,000	
自動車のマネキン及び人体計測の研究	2,360,000	
自動車の安全に関する対策の評価	21,000,000	
団体規格の作成その他	6,000,000	
自動車用機関の燃焼の研究	24,000,000	
操縦性安定性に関する研究その他	2,805,000	
小 計	70,665,000	
事務費	6,175,000	
合 計	76,840,000	

(両君の略歴)

後藤健一君 大正11年2月1日生れ、昭和19年東京帝国大学第2工学部卒業。昭和31年富士精密工業に入社、現在にいたる。

榊原雄二君 大正13年3月8日生れ、昭和18年浜松高等工業学校卒業、昭和25年富士精密工業に入社、現在にいたる。

た高速車両を開発し、高速走行時の空力特性、走行安定、ブレーキなどの

諸問題を解析し、その結果 238.15 km/h の速度記録を樹立した。

昭和 42 年度 事業 計画

1. 事業

- ① 学術講演会および工場見学会の開催
- ② 各種技術講習会および講演会開催の積極化
- ③ 会誌「自動車技術」の内容充実化
- ④ 自動車技術情報活動の強化
- ⑤ 国産自動車諸元表の刊行
- ⑥ 各種自動車関係出版物の企画および出版
- ⑦ FISITA パルセロナ大会に参加の準備 (1968年)
- ⑧ 創立 20 周年記念念式

2. 研究

- ① 自動車の安全に関する対策評価の研究 (補助金事業)
- ② 自動車の安全性向上に関する研究 (")
- (ア) 自動車の横転および衝突による構造の研究
- (イ) 無人自動車走行の研究
- ③ 衝突時に人体 (とくに脳) における傷害の研究
- ④ 自動車用マネキンおよび人体計測の研究 (補助金事業)

- (ア) 自動車用の 3 DM 標準化および試作
- (イ) 人体計測に関する研究
- ⑤ 操縦性安定性に関する研究
- ⑥ 自動車用機関の燃焼の研究 (補助金事業)
- (ア) 機関内の燃焼状態の解析研究
- (イ) 燃料の性状が燃焼におよぼす影響の研究
- (イ) 排気ガス測定方法に関する許容基準決定のための研究
- ⑦ 電波雑音防止の研究
- ⑧ 人間工学、構造強度、燃料潤滑油、その他の研究

3. 規格

- ① 団体規格の作成および見直し (補助金事業)
- ② 規格作成に関する長期計画の作成 (継続)
- ③ ISO の調査、審議
- ④ JIS の原案作成 (委託事業)

4. 支部事業

四支部の事業強化促進